

兼武 小雛

KANETAKE Kohina



白い象

綿、木

白い象

修了制作である『白い象』は以下のプロセスを踏み制作した。

- ①綿花の種を蒔く
- ②栽培、綿を収穫する
- ③収穫した綿を糸にする
- ④作った糸を風によって落ちた枝に巻きつける

また、

- ・できる限り自身で素材に関わり他者を介入させないようにする
- ・明瞭かつ簡単な作業で制作する

この二点を条件として設定した。

これは、私のテーマが労働(仕事)のためである。素材に選んだ綿はプランテーションを始めとした多くの労働問題と関わりのあるものだ。今回の制作には多くの手間と時間がかかったが、どの工程も然程難しくなく、刃物や火、電気を使用しなかった。そのため、多くの人はるか昔の人含め同じものが作れることが想定できる。

タイトルの『白い象』はヘミングウェイの『白い象のような山並み(原題:Hills Like White Elephants)』宮沢賢治の『オツベルと象』などから着想を得たものである。

東南アジアで白い象は神聖な生き物とされてきた。仏教では釈迦の母摩耶夫人が釈迦を身籠る際、天から降りて来た六牙白象が右脇腹に入る夢を見たという説話があり、日本でも縁起物として扱われ、建物の柱など装飾のモチーフになっている。

しかし、それに対し英語の成句で A white elephant は多額の費用がかかったが使い道がない物、無用の長物の意味で使われる言葉である。

自身にとっての白い象がどういったものか。すべてのものの価値とは何だろうか。